

16年3月15日に実施し、好評であった。なお、本講習会は内容のレベルを上げて、平成16年度も引き続き実施する予定である。

コンテンツ作成機材の充実

上記で示したように、専攻科AV教室で編集を可能にするために動画を処理するためのPCを購入した。これによりひとつの部屋で撮影、編集が可能な体制が整備された。

2:作成したコンテンツの授業への活用

本校で撮影した動画コンテンツ、本プロジェクトの他機関のコンテンツを比較した。その結果、独自のものよりも他機関、特に長岡技術科学大学、北陸先端大学院大学のコンテンツが本校では好評であり、この形式を参考に作成することにした。本プロジェクトのプラットフォームであるWebCTについて第二回WebCTユーザーカンファレンスに本校教官が参加し、WebCTの有効利用についての情報を収集した。

3:授業計画の立案

平成17年度から遠隔授業を最低1科目開講するための授業計画を本校専攻科教育委員会及び情報教育センターで立案した。

授業科目：微生物工学概論

担当教官：早瀬教官

3.5.7 学内LAN・インターネットの管理・運営体制

本校の学内LAN・インターネットの管理・運営は、平成15年度に発足した情報教育センターの一部門であるネットワーク運用管理部門で担当している。

ネットワーク運用管理部門の構成は、部門長、教員の委員2名、技官2名(平成15年度1名)で、インターネット(学術情報ネットワーク)への接続に関する事、学内のネットワーク機器の基幹部分の設定に関する事、学寮ネットワークに関する運用、本校トップページの技術的なこと等を行っている。

本校で現在稼働しているネットワークは、平成13年度末に整備されたギガビットネットワークで、校内の各棟を結ぶ基幹光ケーブルは二重化されており、通信速度は1Gbps、各棟内では100Mbpsのイーサネット、各部屋の情報コンセントに接続されている。

これらと同時に整備された学内サーバにおいては、1台のサーバの中に、各学科・部署のドメイン情報をWebブラウザを用いて設定できるようになったため、それ以前に行っていたような専門知識を持っていなくても運用可能なことから、各学科・部署のホームページ、メールアドレス登録、IPアドレスの管理については、広報・図書委員会からの依頼で各学科・部署より選出された担当者が行っている。

これらの担当者は、作成されたWebデータをサーバの各場所に設置する業務を行っていて、学校全体あるいは学科・部署のホームページや全体で考えるべき問題であるが、実際問題としては、サーバ担当者に、Webページのデザインの構成もふくめて全てを担当者に依頼するケースがあり、一部の担当者に非常に負担を強いていることが問題点として挙げられる。

学寮ネットワークに関しては、偶然にも、ネットワーク運用管理部門の委員が寮務委員と兼任しているため、学寮での学生集会等の時間を利用し、学寮ネットワークについて学生が遵守しなければならない事項についての説明会を開催し、また、女子寮の改修の際に既存の学寮ネットワークへの接続を行い、これまで運用ができていた状況である。しかし、今後もこれまでどおりの運用ができるとは限らず、別の問題点であるといえる。

昨今、コンピュータウイルスの問題が大きく取り上げられるようになっているが、本校の学内ネットワークとインターネットへの接続する部分に、ファイアウォールが設置されている。

このファイアウォールにおいては、必要最低限の情報のやりとりを行うように設定しているため、導入同時に利用していないアプリケーションを、後になって学内で利用するようになった場合に、そのままでは利用できないため、設定変更を行う必要がある。平成15年度には、eラーニングの受講などで、ファイアウォールの設定変更の必要が生じた。また、インターネットへの接続以外にも、平成15年度には、高専機構との接続、IT教育のための広域Ether網への接続などがあり、新たなネットワーク機器の導入、設定変更など、平成13年度のギガビットイーサネットの導入時には想定していなかった用件が重なり、ネットワーク関連経費が例年に比べて特に増大してしまった。